

# メバチ 中西部太平洋

Bigeye tuna *Thunnus obesus*



## 管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：10~15 歳
- 性成熟年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：温帯域
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海産哺乳類

## 利用・用途

刺身や缶詰原料

## 漁業の特徴

はえ縄及びまき網が主な漁業である。はえ縄は 1950 年代にキハダを主要対象種として発展したが、1970 年代半ばにメバチを主要な対象とするようになった。まき網は、カツオを主対象としつつ、キハダも漁獲する漁業として 1970 年代半ばに始まった。1970 年代までは、はえ縄が漁獲の 9 割を占めていたが、1980 年代以降、まき網による漁獲量が増加した。フィリピン・インドネシアでは小型まき網、ひき網、竿釣り、手釣り等の漁業が小規模かつ多様で、漁獲量も大きい。

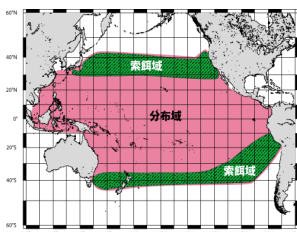
## 漁獲の動向

総漁獲量は、はえ縄がほとんどであった 1970 年代には 5 万トン未満であったが、まき網が増加した 1980 年代末に 10 万トン以上に達し、1990 年代後半には 15 万トン前後となった。2004 年に 19 万トンのピークを記録した後は 13 万~16 万トンで推移している。2021 年の総漁獲量は 14.2 万トン（予備集計）で、内訳は、まき網が 53%、はえ縄が 31%、竿釣りが 1%、その他が 15%である。そのほかには、フィリピン及びインドネシアにおける多様な漁業（ひき縄、小型のまき網、刺網、手釣り等）が含まれている。

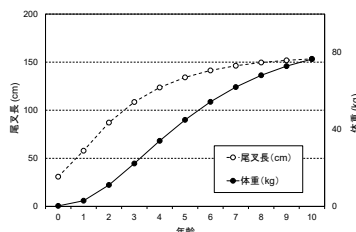
## 資源状態

資源評価は 2020 年に SPC の科学専門グループにより行われた。MSY は 15.9 万トン（24 ケースのモデル計算の中央値）と推定され、2019 年の漁獲量より大きい。2015 年から 2018 年の平均の産卵資源量 (SB) のレベル ( $SB_{2015-2018} / SB_{F=0}$ ) は 0.41 (80%確率範囲は 0.27~0.52) であり、限界管理基準値 (Limit Reference Point ;  $SB / SB_{F=0} = 0.20$ ) を上回っている。また、従来、過剰漁獲の判断基準と見なされてきた MSY を実現する漁獲死亡係数 ( $F_{MSY}$ ) と比較した場合、2014 年から 2017 年の平均漁獲死亡係数のレベルは 1.0 を下回った ( $F_{2014-2017} / F_{MSY} = 0.72$ ) (80%確率範囲は 0.49~1.02)。これらの結果から資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲の強さが過剰でない可能性が高い。

資源水準と動向について、24 ケースの資源評価モデル計算結果から 1952 年~2018 年の産卵資源量の平均値と標準偏差を集計し、近年の産卵資源量が平均±1 標準偏差の範囲にあれば中位、それより大きい場合、小さい場合をそれぞれ高位、低位とすると、最近 5 年の産卵資源量は 92%が中位、残りが低位とされた。このため、資源水準は中位であり、動向については、最近 5 年の産卵親魚量の変動も少ないため、横ばいと考えられた。



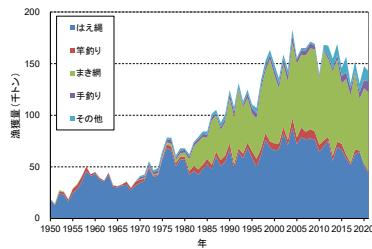
太平洋におけるメバチの分布



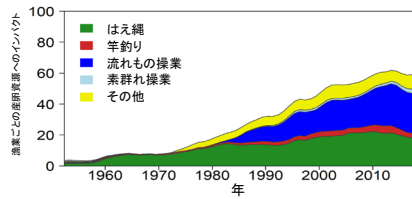
中西部太平洋におけるメバチの成長曲線

管理方針	
<p>まき網（熱帯水域）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FAD 操業禁止3か月（7～9月）+ 公海FAD 操業禁止追加2か月（4～5月もしくは11～12月）</li> <li>・FAD 操業禁止は、本船以外の船（tender vessel等）にも適用される</li> <li>・FAD 数規制（1隻あたり常時350基以下）：全条約水域に適用</li> <li>・公海操業日数の制限（先進国に加え島嶼国がチャーターする船にも適用）</li> <li>・島嶼国以外のメンバーの大型船隻数制限</li> <li>・海洋生物の絡まりを防ぐため、2024年からFADへの網地の使用禁止</li> </ul>	
<p>はえ縄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メバチの漁獲量制限（我が国の漁獲枠は18,265トン）</li> </ul>	

メバチ（中西部太平洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近5年間）	13.0万～15.2万トン 最近（2021年）：14.2万トン 平均：14.0万トン（2017～2021年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	1.0万～1.9万トン 最近（2021年）：1.0万トン 平均：1.7万トン（2017～2021年）
管理目標	検討中
資源評価の方法	統合モデル（Multifan-CL）
資源の状態	$SB_{2015-2018} / SB_{F=0} = 0.41$ 、 $F_{2014-2017} / F_{MSY} = 0.72$
管理措置	<p>まき網（熱帯水域）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FAD 操業禁止3か月（7～9月）+ 公海FAD 操業禁止追加2か月（4～5月もしくは11～12月）</li> <li>・FAD 操業禁止は、本船以外の船（tender vessel等）にも適用される</li> <li>・FAD 数規制（1隻あたり常時350基以下）：全条約水域に適用</li> <li>・公海操業日数の制限（先進国に加え島嶼国がチャーターする船にも適用）</li> <li>・島嶼国以外のメンバーの大型船隻数制限</li> <li>・海洋生物の絡まりを防ぐため、2024年からFADへの網地の使用禁止</li> </ul> <p>はえ縄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メバチの漁獲量制限（我が国の漁獲枠は18,265トン）</li> </ul>
最新の資源評価年	2020年
次回の資源評価年	2023年

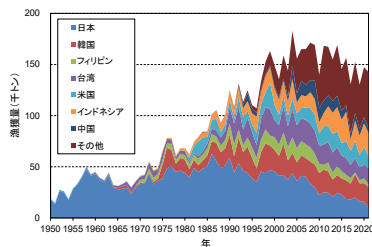


中西部太平洋におけるメバチの漁法別漁獲量の推移（1950～2021年）

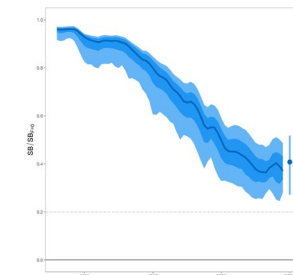


中西部太平洋における漁業ごとのメバチ産卵資源へのインパクト（1952～2018年）

縦軸は漁業が資源を減少させた割合（%）を示したものである。はえ縄（緑）、竿釣り（赤）、まき網流れもの操業（青）、まき網素群れ操業（水色）、その他（黄）を表す。

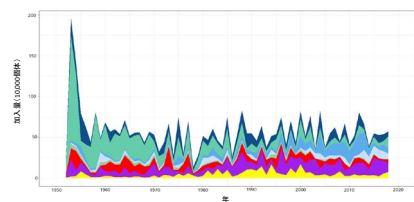


中西部太平洋におけるメバチの国・地域別漁獲量の推移（1950～2021年）



中西部太平洋におけるメバチの Spawning Biomass ratio の推移（1952～2018年）

漁業がないと仮定した状態のSBを1.0としたときの、2020年のSBの割合。太い青線は24モデルのメディアン。濃い青色の影、薄い青色の影は、それぞれ、50パーセント、80パーセントを示す。最も右側の青丸は過去3年（2015～2018年）のメディアン、垂直のバーは80パーセントを示す。なお Spawning Biomass ratio の推移は、過去1年分の漁業がないと仮定して推定した値。最も右側の青丸は垂直のバーは各年について過去10年分の漁業による漁獲がないと仮定して推定した値であることを留意。過去10年分のケースが資源管理方針を考える場合の指標に用いられる。



中西部太平洋におけるメバチの加入量（1952～2018年）  
海域ごとの加入量を表す。